

### 斉一性とは、こういうことです（前へならえ）

わたくしがよく使う「斉一性」について指導例をもとに説明をします

コロナ禍の中、全校朝会はオンラインですが、通常の全校朝会を思い浮かべてください

**全校朝会の看護当番**（前へならえ ではなく 前へー 少し空ける ならえ！）

「前へならえ」の号令は、「前へ」が予令で「ならえ」が本令です。「前へ」と「ならえ」の間を少し空けることで、児童に次の指示を待つ心構えが生まれ、斉一性の取れた一糸乱れぬ「前へならえ」ができます。

「前へー」（へー と少し伸ばして間を取るのが、指導の「こつ」です。）

「なおれ」と言った直後に「ざっ」と服と腕が擦れる短い音が出ると完璧です。

合わせやすい「気をつけ・礼」にするためにも、**児童の前に立ってから少しの間**が必要です。

私は、いつも少し大げさにしています

朝礼台では、話す前に必ず「**やすめ**」と指示をしてください。指示がないと、話を聞く姿勢が取れず、身体が動いてしまいます。

私は、全校の前に立つ先生全員に繰り返しお願いしていることです。難しいことでも何でもありませんが**このような指導が徹底している学校は少数です。**

「当たり前約束事がなかなか徹底されない」だから斉一性を定着することは難しいのです。

「例外なくどの教師も指導できる学校が、斉一性が取れた学校なのです」

「例外なく全員です。一人でもできなければ、斉一性は果たされません」

### 斉一的と画一的は対極にある言葉です

#### 斉一性が定着した好事例

以前の学校の学校運営協議会委員の方から運動会の際にこのようなご意見をいただきました。

「運動会で、とても気持ちの良いことがありました。それは、先生方の服装です。どの先生の上着（シャツ）もズボンの中にきちんと入れられていました。シャツを入れなさいと指導する先生方全員が、子どもたちの見本となって実践をされていることを素晴らしいと思いました」

「斉一性の定着」に難儀をしていた時期でした。おそらく当時の運動会委員長からの働きかけがあったのだらうと思います。それ以降、他の分野でも「やりましょうといったことが、例外なく全員が当たり前ができる」学校へと急速に進化していきました。

**それぞれのお立場での斉一性の意味を解釈していただき、次年度経営構想を引き続きご覧ください。**